

人も自然も共に生きる

# ESD × 生物多様性しんぶん

2009年夏号

このニュースレターは、ESD-Jが取り組む「ESD×生物多様性」プロジェクトのプロセスや成果をお伝えするために、年4回発行されます。

## 「ESD×生物多様性」プロジェクトが目指すもの……………

**来** 年10月に名古屋で開かれる「生物多様性条約第10回締約国会議 (CBD/COP10)」を契機として、持続可能な開発のための教育の10年推進会議 (ESD-J) では、「ESD×生物多様性」をテーマにした3カ年事業 (2009-2011)を実施します。

生物多様性は持続可能な社会の基盤となるものであり、その保全には、自然に大きく影響を及ぼしている地域の暮らしや人のありかたが大きな鍵を握ると、ESD-Jは捉えています。なかでも、研究者や専門家だけが関わるのではなく、地域の自然保全や活用に関する伝統的な知恵を持つ人びとや、さま

ざまな立場の関係者が関わり、互いに学びあいながら、生物多様性保全に根ざした地域を作っていくことが重要です。

この事業では、日本各地で既に実施されている、生物多様性保全と生業・暮らしを両立させるような地域づくり活動をとりあげ、人づくりや住民参加の側面に焦点を当てて調査・文書化をします。そして、現地で地域ワークショップを開催し、地域のESD実践者や生物多様性保全活動を進める関係者と事例を分析し、生物多様性保全につながるESDの姿を明確にする議論をしながらネットワークを広げます。

さらに、これらの活動をもとにESDの視点

からCBD/COP10に向けた提言を作成し、日本国内および、特にグローバル化・急激な近代化の中で日本と類似の課題に直面しつつあるアジア・アフリカにおける持続可能な地域づくりに貢献して行く予定です。(進め方は裏面をご覧ください。)



## せいぶつたようせいQ&A……………

生物多様性条約とは?  
また、COP10では  
どんなことが  
議論されますか?

回答者▶  
環境省自然環境計画課課長

星野一昭さん

**地** 球上には、森・里、川、海などさまざまな自然環境に適応して進化した多様な生きものがいて、お互いにつながりあい、支えあって生きています。もちろん人間もそのつながりの一部です。「生物多様性」とは、このようにさまざまな生物がつながりあって存在をしている状態をさします。しかし、現代は、「第6の大量絶滅時代」とも云われているように、人間の活動によって、生物がかつてないほど大量にかつ非常に早いスピードで絶滅し、生態系のバランスが崩れ、多様な生物に依存している人の足下も崩れつつあります。

度評価と、その後の目標が議論されます。

生物多様性条約は、①地球上の多様な生きものをその生息環境とともに保全すること、②生物資源を持続可能な方法で利用すること、③遺伝子資源の利用から生ずる利益を公正・平衡に配分することを目的にしています。いずれの解決にも、消費者やNGO/NPO、事業者など幅広い民間の人びとが参画し、環境に配慮しない産業・農業活動や、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済活動などを見直すことが必要で、来年のCBD/COP10でも、民間参画は重要なテーマとして議論される見込みです。

環境省でも、日本での会議開催を機に、それぞれの生活や仕事と関連づけながら生物多様性保全に取組んでいけるよう、幅広い人びとに参画を呼びかける予定です。その第一歩として、民間参画の重要性と各分野の事業者による具体的な取組み事例を掲載した「生物多様性民間参画ガイドライン」がまもなく公表されます。ぜひともご活用ください。

### 地球のいのち、つないでいくう

生物多様性

環境省生物多様性コミュニケーションワード  
国、地方公共団体、NGO等が作成するパンフレットやWEBサイト、企業広告などにこのロゴを使用していただけます。  
詳しくは、生物多様性地球戦略企画室 電話:03-5521-8275  
URL: <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=10447>

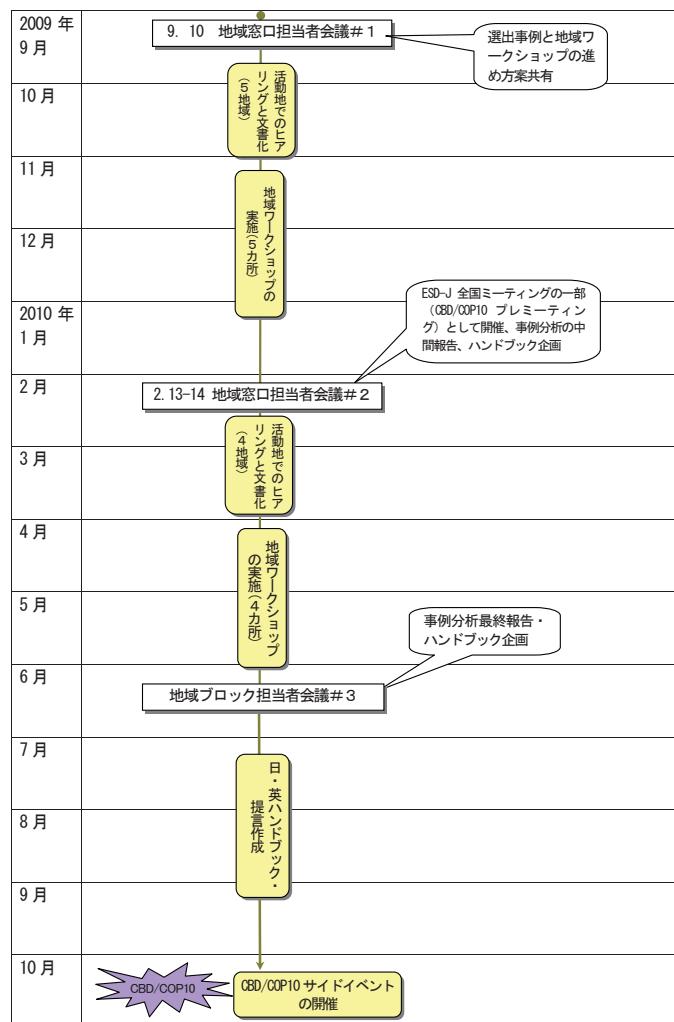
# 「ESD×生物多様性」プロジェクトの進め方

このプロジェクトは、来年10月に開催される国際会議CBD/COP10を折り返しポイントとして、前期と後期に分かれます。前期は生物多様性保全につながるESDの事例調査をもとにしたCBD/COP10への提言およびハンドブック作成、後期はその提言やESDのノウハウを各地に普及するための活動を展開する予定です。

まずは、全国を9つの地域ブロックに分け、ESD-J会員の方に窓口を担っていたいきました。9月10日には第一回の担当者会議を開催、各ブロックから「ESD×生物多様性」のキーワードにフィットする実践事例を1件選び、ヒアリング調査を進めます。そして秋から来年の春にかけて、ESDや地域づくりに関心を持つ人とともに、事例で取り上げた地域でその取り組みを掘り下げて学び、それぞれの経験を語り合う地域ワークショップを開催します。この時、地域の参加者の皆さんのESD実践事例も集めていきたいと考えています。（地域ブロックによって進め方がことなることがあります。）

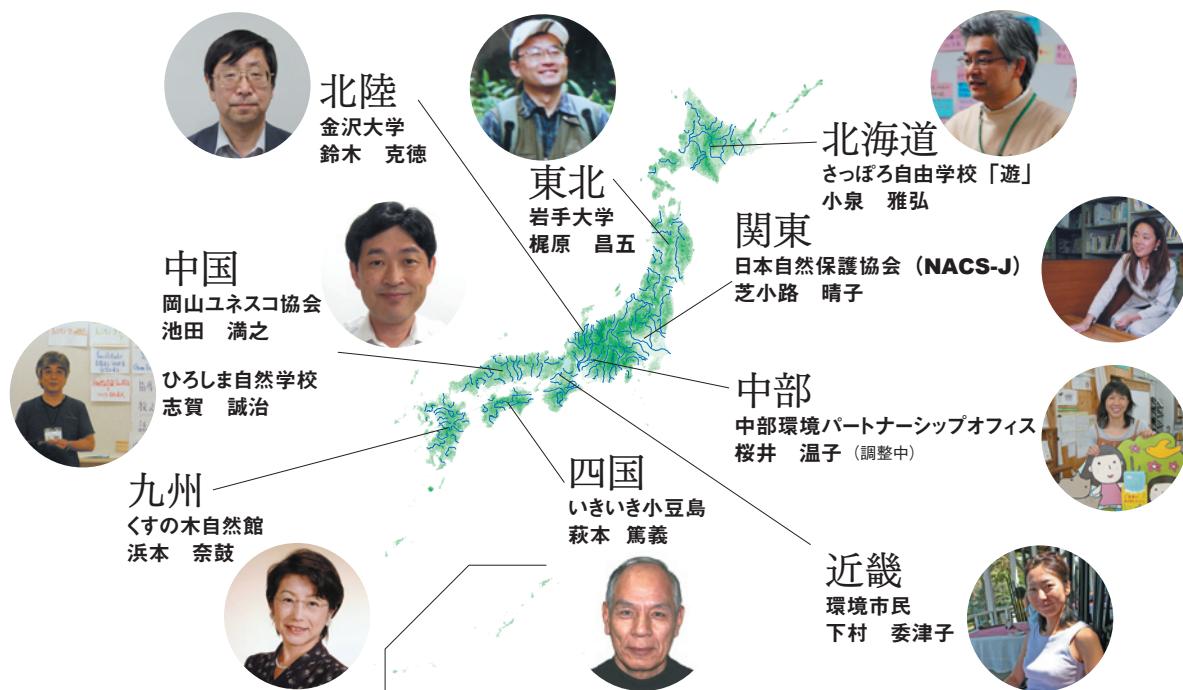


そして、来年2月13-14日のESD-J「全国ミーティング」での中間報告、2回の地域担当者会議を経て、提言とハンドブックを取りまとめていきます。



## 地域の「ESD×生物多様性」活動をつなぐ

各地域の窓口を、わたしたちが担当します！



発行：特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議（ESD-J）

編集：ESD-J 地域プロジェクトチーム <http://www.esd-j.org> e-mail: [admin@esd-j.org](mailto:admin@esd-j.org)

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F TEL: 03-3797-7227 FAX: 03-6277-7554



この印刷物は、平成21年度地球環境基金の助成を受けて制作されています。

レイアウト：宮部浩司